

寿山小だより

第15号 学力特集

平成30年10月16日
北九州市立寿山小学校
校長 小峯 浩幸

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

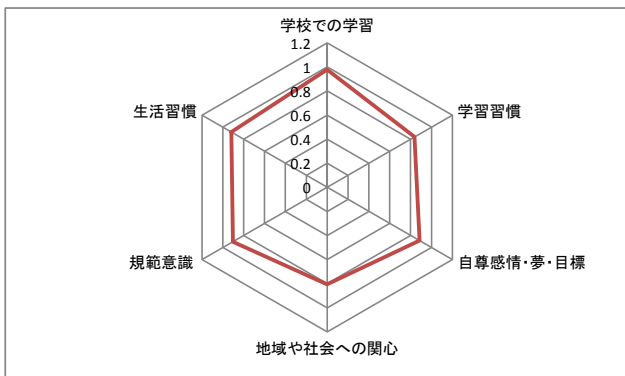
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	○平均正答率よりも正答率の高い児童が、全国・福岡県の平均よりも多い。 ○言語についての知識・理解・技能の領域での正答率が高い。 ○話す・聞く能力、書く能力の領域での正答率が低い。	上回っている
国語B	○話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの全ての領域で全国平均を上回っている。 ○記述式の解答を求める設問で無回答が見られる。	上回っている
算数A	○正答率の高い児童と、低い児童に分かれ二極化している。 ○量と測定領域の正答率が高く、数と測定領域の正答率が平均値よりも低い。 ○短答式の問題形式の方が、記述式の問題形式よりも正答率が高い。	下回っている
算数B	○平均正答率は、全国平均と同じ程度である。 ○正答率の低い層から高い層までが、同程度の割合である。 ○記述式の正答率は、全国平均よりも高く、選択式の正答率が低い。	下回っている
理科	○正答率の高い児童と、低い児童に分かれ二極化している。 ○自然事象への関心・意欲・態度の観点は、全国平均と比較すると高い評価である。 ○自然事象についての知識や理解は低い。	同程度である

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- 学校での学習では、話し合い活動については、よく行っていることが示されている。「わかる授業づくり5つのポイント」の取組の成果が見られる。
- 自尊感情・夢・目標では、人の役に立つ人間になりたいと考えている児童は多いが、自分によいところがあると理解している児童は少ない。全校で「ありがとう」の取組や「ニコニコカード」の実践を充実させる。
- 家庭学習においては、自分で計画を立てて取り組む児童が少なく、学習時間も全国平均と比べて短い。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 学校において話し合い活動を行っていることは、児童にも意識され高い評価になっている。今後も児童の実態に即した思考ツールを取り入れ、話し合い活動を充実させていく。
- 自分の考えを書く活動を学習の中に位置づけることで、主語と述語が整った文章が書けるように指導する。
- 「寿山小学校 学習の約束」を全学級で取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭における学習の内容や目安となる時間を示した「家庭学習の手引き」を作成し、保護者に配布した。学級懇談会で担任より説明を行い各家庭の協力を求める。
- 各学級で、適切な量と内容を提案した家庭学習の課題を与える。
- 本校のアンケートでは、スマホなどの使用時間が長くなっている。利用の約束など家庭で取り決めを依頼する。